



(会  
員)  
伊東總吉  
薄井良昭  
川崎光草子  
佐々木征  
佐藤裕幸  
杉野和夫  
鈴木忠男  
野口勉  
福井豊  
堀良慶

(顧問)  
笹木繁男

(敬称略・50音順)

野田哲也 「日記1968年5月3日(仮称：若きドリッ  
ト)」

NPO法人あーと・わの会 通称：「わの会」

## 第38回放談会



2014年7月13日(日) 9時～12時  
於 東京・京橋区民会館 洋室3号室

# 第38回放談会

1. 日時 2014年7月13日(日) 9時～12時
2. 場所 東京・京橋区民会館 洋室3号室
3. 出席者(計11名、敬称略、50音順)  
＜会員＞伊東總吉、薄井良昭、川崎光草子、佐々木征、佐藤裕幸、杉野和夫、鈴木忠男  
野口勉、福井豊、堀良慶  
＜顧問＞笹木繁男
4. 司会進行・佐藤裕幸、 書記・鈴木忠男、 写真、編集制作・野口勉
5. 放談会(発表順)

## ① 佐々木征



伊勢崎勝人 1949年生 「伊セエビ」 油彩・キャンバス F4号

1978年東京美術学校油絵科卒業、第54回白日会展で「紙と有刺鉄線」が初入選、T賞、文部大臣奨励賞、1980年白日会会員、1981年渡欧、2007年第39回日展特選、宮城県芸術選奨、2008年第84回白日会展で内閣総理大臣賞、2010年第42回日展特選、日展無鑑査、日展会友

主な出品：日本青年画家展、具象現代展など

<談>

**佐々木**：作者不詳で出品されたので安い落札値で購入できた、若描きではないかと思う。花や果物の静物画が主であるが伊セエビは珍しい。

**野口**：近年は東日本大地震の復興への願いをテーマにした作品制作を手がけ、北の大地ビエンナーレ大賞を受賞している。詳しくは [伊勢崎勝人オフィシャルサイト www.k-isezaki.com/](http://www.k-isezaki.com/)

## ② 杉野和夫

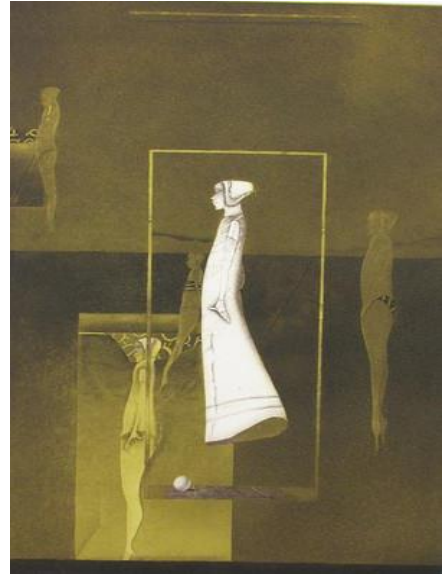


関口雄揮 (ゆうき) 1923－2008年「北の岬」 紙にアクリル 3号  
(27.3×24.3cm)

1948年東京美術学校日本画科卒業、1952年戦後初の文部省給付留学生として渡仏、アカデミー・ランソンに入学、1954年東山魁夷に師事、1979年第11回日展特選、1983年第15回日展特選、1990年紺綬褒章、日展会員、1995－1998年京都・永観堂(禅林寺)画仙堂障壁画制作、2005年関口雄揮記念美術館開館(札幌市・南区)

<談>杉野：写実的な風景画を旨とし郷里の秩父や信濃などの山野の自然を多く描いたが70年代より北海道の取材を始めると作風を一転、写実的な描写と原色を用いた大胆な彩色が入り交る幻想的な風景画を制作し、とりわけ冬の北海道を描いた作品で好評を博した。この作品は「北の岬」の習作と思われます。

## ③ 伊東總吉



堀井英男 1934－1994年

「magic room (84-2)」エッチング・アクアチント 2版2色 58×42.5cm 3/30 制作年：1984年

芸大で油絵にあきたらず萩原英雄に師事して色彩銅版画を独自に開拓したという。本作はその壮年期のシリーズで3年かけて空間に黄土色・黒の背景のなかで浮遊子を自在に描いてその典雅で闊達な画風は見るものを楽しませてくれる。

<談>伊東：養清堂画廊(銀座)で薦められて購入した。限定30部でも実際は3～4部しか自刷していないようだ。笹木：普通は限定部数を刷り(版画工房に発注もあり)、売れた時にサインをする。この作家は没後に評価されている。

#### ④ 堀 良慶



野田哲也 「日記1968年5月3日 (仮称：若きドリット) 大英博物館常設展示作品  
木版にスクリーンプリント・和紙 45.0×45.0cm 制作年：1968年

1940年熊本県生れ、1963年東京藝術大学卒業、1965年東京藝術大学大学院修了、1971年ドリット・バルトゥールと結婚、1991年東京藝術大学教授、2010年名誉教授、1978-1998年客員芸術家としてカナダ、オーストラリア、アメリカの大学で指導、2010-2014年文化庁文化交流使としてイスラエル、イギリスで木版画の指導、2014年大英博物館・日本ギャラリーで個展

<談>堀：私は好き嫌い、感情感覚で作品を選ぶことが多い。野田作品は理論で求めた。現在42点を収蔵。この作品は裏打ちしていない（必要ないとのこと）。野田先生はシャイなので私が広報担当となりプレスリリースを新聞社などマスコミに送ったり友人にウィキを作成してもらったりしたら取材が来たりして柏市に版画を寄贈した件が新聞記事（写真付）となった。

笹木：野田さんの版画はシルク・木版画併用なので修復が困難だったが、教え子が修復方法を開発して出来るようになった。

#### ⑤ 野口 勉



鈴木 誠 1897-1969年  
「婦人像」 素描（鉛筆・紙）32.8×20.6cm 制作年：推定1960年代

1919-1921年東京美術学校西洋画科・藤島武二に師事、1921年帝展入選、光風会・今村奨励賞、1921-1927年渡仏、1929年帝展特選、1936年猪熊弦一郎、中西利雄、小磯良平等8人と新制作協会設立、中村彝、佐伯祐三等と下落合アトリエで活動（中村彝アトリエ保存に私財投入し尽力した。）

<談>野口：日本では本画に比べ素描（デッサン）は一段低く評価されている。しかし欧州の素描画コレクターが一目おかれていることを考えると単なる下絵と捉えない奥深さを感じなければならないと思うが如何でしょうか。鈴木誠の油彩画は美術館所蔵がほとんどで市場にはなかなか出てこない。

鈴木(忠)：鈴木誠の戦争画について笹木さんから一言あったが、後日「戦争と美術」(07年刊、針生一郎ほか編)で調べたら鈴木誠「皇土防衛の軍民防空陣」(45年)は近美にあり、鈴木満「学徒出陣」(44年)は現在所在不明作品となっていた。

## ⑥ 川崎光草子



梶本吉隆 「しまうま」 クレヨン・紙 制作年:2014年

1978年7月27日生れ、動物・花・身近な景色を色鉛筆、クレヨン、絵の具などを塗り重ねて独自の色使いに仕上げでゆく。まあ広い広場では特にクレヨンを使って描くことが多く、本人の中でその時々で強く好む色があるように思える。何層にも重なった色はモチーフの存在を力強くアピールする。絵画の他、ミシンによる「縫い」の作業も行っている。彼独自の「縫い」も大変魅力的である。散歩をすることを好む。造形教室ログ・アトリエに通っている。

<談>堀：癒される良い絵です。川崎：先月（6月）トモス（日本橋）の3人展にて購入、去年購入した「白い花」（15号位）に次ぎ2点目です。犬にも見え足も多く見えました色彩が好きです。

鈴木（忠）：自分も去年1点購入し今回も見に行きました。最近はアール・ブリュット作家と紹介される人が多くいますが、この人は今後も評価される作家となるでしょう。

## ⑦ 薄井良昭



大槌 隆 1949年生れ 「海風」 油彩・キャンバス 4号

1974年三軌展初出品、以降三軌会賞、文部大臣奨励賞、1991年安井賞展  
1993年日仏現代美術展佳作賞、1994年21世紀アート大賞展奨励賞、小磯良平大賞展出品  
1996年水彩展OHARA優秀賞、東京展優秀賞、1997年海の大賞展奨励賞、1998年三軌会  
50回展記念賞、三軌会会員、日本美術家連盟会員として活躍、海をテーマとした多くの風景  
画を制作する。

<談>薄井：最新作であろう。佐々木：船橋市在住作家ですね。

⑧ 鈴木忠男



梅野木雨 「古城のいめーじ」 油彩・板 F3号 制作年：1995年

1996年1月の個展（銀座・空想・ギャラリー）で購入  
菅野圭介のオマージュだろう。

<談>鈴木：サインの下に画題が書かれている。  
今年の「私の愛する一点展」（梅野記念絵画館）に出品します。  
油彩画は数少ないのではないかと思います。  
後日送りましたらすぐに梅野さんの長女から私も見たことが  
ありませんとお電話がありました。



⑨福井 豊



作者不詳 「題不詳（童画・絵本原画版下7枚）」 ペン画・紙 制作年：不詳（昭和期）  
大部分は11×16cm（紙寸オール14×19cm）

20年程前、どこか忘れたが都内のデパートで開催のアンティーク市で面白いと思い購入。  
全部で2万円だったように記憶する。子供向け読物の挿絵原画版下であろう。  
画風が童画の岡本帰一(1888~1930)に類似しており時代も戦前の昭和初期かとその頃は思っていた。  
しかし内容が欧米の物語と思われる裕福な生活スタイルからすると、どうもアメリカナイズが進んだ戦後  
1950年以降の制作ではないかと近頃は見ている。とすれば岡本帰一ではないことになる。  
おそらく画風の影響を受けたフォロワーであろう。出版された本の現物が何であるか判れば作者も年代も  
特定できるのだが、ご存じの方がいらっしゃればご教示願いたいと思っている。

⑩ 佐藤裕幸



兵藤和夫 1920-2012年 「洋梨」 油彩・キャンバス F 3号 制作年：1989年

横浜市真砂町に生まれる

1932 川村信雄の画塾に素描を学ぶ、1949年独立展を辞し、無所属となる

1950年 この頃より七年余、作品発表せず岩磐の如き厚塗り、暗黒褐色の作品を描き、おのずと多くの作家に影響を与える

1962年朝日新聞社主催国際具象画展招待出品、1992年兵藤和男回顧展(東京セントラル絵画館)、2001年横浜文化賞、日本秀作美術展

<談>佐藤：J A Aオークションで入手、兵藤先生とは生前、何回かお会いし敬愛する作家でした。重厚な佳作、作品は少ないが熱烈なファンが多い。物故作家を中心に蒐集しているが現存作家で集めたのは兵藤先生だけだった。佐々木：自分も4点持っている、愛宕山画廊の画集あり。先日のオークションでは30万円までいった。永井路子(歴史小説家)さんも蒐集している。

○顧問: 笹木繁男さんに講話をいただきました。(11:40~12:00)

1 「コレクションの方向を再考」

- 今まで現代美術系が多かった。
- 現代作家は海外では抽象でないと評価されにくい。
- 風景画が少ないが静岡県に8年程在住していたことから「富士山」の画がいくつもある。酒井抱一、柴田是真、川端玉章、片岡球子など
- 核になるコレクションが重要だろう。

2 「執筆中のもの」

一般的に図録の年譜はおもしろくない。笹木方式でつくっている。

- 「作家の足跡から」  
70名の作家を編集している。
- 「藤田嗣治の実像を求めて」  
今までの藤田の伝記は虚像なので実像を記している。



○笹木繁男 著書

ドキュメント 時代と刺し違えた画家 「中村正義の生涯」



○放談会終了後、昼食会を実施しました。

○次回放談会は平成26年10月に実施予定です。

(文責:鈴木忠男)

<編集後記>

放談会は実に軽やかで和気あいあいと持ち寄り作品が楽しめる。  
このような至福の時間はできるだけ多くの人と共有したいと思う。(の)

発行 : NPO法人あーと・わの会 通称「わの会」

発行日 : 平成26年8月吉日

編集 : 実行委員

佐藤裕幸(司会進行) 鈴木忠男(書記) 野口勉(写真・編集制作)

連絡先 : 事務局 〒277-0871 柏市若柴1-358 堀良慶

TEL 04-7134-8293 [ryokeihori@yahoo.co.jp](mailto:ryokeihori@yahoo.co.jp)

発行部数 : 75部